

市民協働推進計画の事業の検証と評価 3事業：委員の皆さんの評価

1 わがまち協働大賞

<評価【Check】欄>

○活動の価値<取組のすばらしい点・価値>

- ・高い評価を得ることで、活動のはずみがつく。
- ・こらぼ村での表彰は、市民への活動のアピール度が高く、活動を広く知ってもらえる事ができる。
- ・今年度は中学生の参画は、次代を担う若者の参画はまちづくりのためにも大きな意義がある。
- ・エントリーされた団体は、次の段階に向けたステップを踏み出しておられるように思う。
- ・中学生が選ぶ賞はこれからの地域の若者の意識付けに大いに良い影響があったように思う。
- ・自分達の市民活動が表彰（顕彰）されることは、これ自体が大きな価値
- ・表彰されることにより、自らは社会に貢献していることを認識できるし、市民に知ってもらえる。

○課題<取組を実施しての課題>

- ・応募団体が偏る傾向にある。
- ・まだまだ自発的応募という感じではない。市民レベルでの情報共有がまだまだなのか、協働ということに対する認識のずれがあるのか・・・気軽に応募できてもいいように思う。（行政からの働きかけがなければ、どの程度のエントリーだったのか？）
- ・多くの活動団体は、協働事業をやっているという認識がないので、声かけをしないとエントリーが少ない。

○副次的な効果<取組がもたらした地域や社会の変化>

- ・副賞の提供を企業等に依頼することで、企業を巻き込み、意識を高めることができた。
- ・過去のインターネット投票で多くの票を集めた地域の方々への働きかけは、認知度をいっしょに高めたのではないかな。
- ・地域のよい事例を知ることにより、それを応援しようという気持ちができ、これは地元愛につながる。今回、中学生達が知ってくれたことにより、次の時代へ思いがつながるきっかけとなった。

<改善【Action】欄>

○今後の展開や改善・維持<評価をふまえた改善提案・支援等>

- ・まだまだ認知度は低いので、自らの応募を待つだけでなく、地域の活動を知るまち協などにも協力を求めて、応募を働きかけてはどうか。
- ・若者の参画を促すために、中学生だけでなく、市内の高校や大学へのよびかけ。
- ・エントリー団体以外の市民レベルでの認識のアップを図る必要があるのではないかな・・・
- ・東近江での協働事例（この事業自体のことも）を、全県・全国に発信していくことによって、他の地域とのつながり（協働）を展開できる可能性あり。
- ・クーポン・サービス券の依頼と協力事業所の充実により、当事者以外の市民レベルでも、より一層市民全体の動きになるように感じる。
- ・自分たちで何かができるとまだまだ感じておられない市民へ、あなたにもこんな役割がありますよ、こんな活躍の場がありますよ、という感じの何らかの可能性の提供ができると面白いのではないかな。
- ・活動している団体への応援チームづくりのようなサポート体制作りができると、活動団体の孤立化を防ぎ、さらに輪が広がらないかな。
- ・エントリーしやすい名前に変更してはどうか。
- ・広く市民に知ってもらうために、ポスター掲示を増やしてはどうか。

2 地域担当職員制度

<評価【Check】欄>

○活動の価値<取組のすばらしい点・価値>

- ・スキルの高い職員の協力を得て、まちづくり協議会活動の一端を担っている
- ・具体的地域を担当して、より地域のために活動したいと思って手を上げた職員がいてくれたことだけでも大きな前進。
- ・地域の会議に積極的に参加してもらえて励みになった。
- ・市職員が、机の上の仕事だけでなく、まち協の現場に出向いて話をするのは貴重。

○課題<取組を実施しての課題>

- ・まちづくり協議会からの期待度が大きすぎて、地域担当職員の重荷になっていないか。
- ・職員の本来業務に影響は出なかったのか・・・？
- ・市職員は、オーバーワークになっていないか。

○副次的な効果<取組がもたらした地域や社会の変化>

- ・市役所と市民の距離が近くなった。
- ・市職員が地域に出ることで、たくさんのまちの声が市に届けられる。

<改善【Action】欄>

○今後の展開や改善・維持<評価をふまえた改善提案・支援等>

- ・まち協から地域担当職員への一方通行になりかねないので、地域担当職員の提案の場を増やす。
- ・担当職員のモチベーションを落とさないように、職員間のポジティブな部分の意見交換ができないか。公開討論会でも良いのではないか・・・
- ・同一地域での職員の動き（連携）が見えてこなかった（見えなくても良いのかもしれないが・・・）
- ・行政マンとして、行政のノウハウなんかも教えて貰えるとまたよかったのではないか・・・
（市民レベルで見えない・知らないことも多いのも問題）
- ・地域担当というより、地域に張り付いてそれを本務とする仕事体制はとれないのか・・・
- ・地域で出てきた課題を「まちのわ会議」につないでいけるとよい。

3 市民活動推進交流会「わくわくこらぼ村」

<評価【Check】欄>

○活動の価値<取組のすばらしい点・価値>

- ・大型スーパーが会場であるため、多くの市民を自然と巻き込むことができる。市民へのアピールができ、活動に張り合いが生まれる。
- ・認知していなかった団体や活動を知ることにより、自らの活動を振り返ることができ、新たな活動へつなげることができる。
- ・初参加の団体が増えていることは大きな前進
- ・いろいろな市民活動を一堂に知れる場であり、交流できることがよい。

○課題<取組を実施しての課題>

- ・交流の場となるべきところが、その場限りに終わっていないか。
- ・マンネリ化してきた感がある。参加団体が固定している。
- ・人混み状態がもう少し緩和されると、もっと落ち着いて色んな話が出来るかも（時間的なものもあるが・・・）
- ・まだまだ、市民に浸透していない。

○副次的な効果<取組がもたらした地域や社会の変化>

- ・会場がアピアであることによって、偶然的参加者になってもらった方が活動を認識してもらえ、その方々が次の参加団体・活動団体になる可能性もあったように思う。

<改善【Action】欄>

○今後の展開や改善・維持<評価をふまえた改善提案・支援等>

- ・会場が同一のため、市民の目も固定化する。展示物だけでも、各地区に持ち回れないか。コミセンなどに展示。
- ・市民活動は多岐にわたっているため、まちづくり協働課で把握できない団体への呼び掛けを他の部署にも依頼する。
- ・各ブースのメンバー同士がどのように交流し、今後の展開につなげているかが見えにくいので、次年度以降の参加団体からの報告事項のような形で、具体的成果を教えて貰うのも良いのではないか。
- ・目標以上につながりはできてきているようだが、それが各団体の活動との協働までは至っていない段階のようなので具体的にコーディネーターブースみたいのを設けてみては・・・（協働についてその場で相談できる場所）
- ・チラシに加え、大きなポスターを作製し、市内各所に貼ることにより、市民の目に留まるようにする。
- ・アピア1階の客を、パンフなどで呼び込む工夫を。

4 ええより

<評価【Check】欄>

○活動の価値<取組のすばらしい点・価値>

- ・テーマが絞られ、身近な場で実施されることで、参加しやすい。
- ・当初の目標は達成しているように思う

○課題<取組を実施しての課題>

- ・その場限りのイベントになっていないか
- ・主婦をターゲットにして次の展開をどのように広げていくのか、テーマの議論をどのように生かすのか（参加していないので分からないままの意見です。）

○副次的な効果<取組がもたらした地域や社会の変化>

- ・少人数で体験することで、新たな交流が生まれる

<改善【Action】欄>

○今後の展開や改善・維持<評価をふまえた改善提案・支援等>

- ・良い取り組みだと思うので、各地で開催の機会を提供すべき
- ・参加したメンバーが次の企画をできるように動き出せる仕掛けがあるといいかも。
（既にされているのかもしれませんが・・・）